

【全体概要】

- 1 難防除害虫であるクワシロカイガラムシについて、新規導入薬剤や耕種的防除・天敵利用などのIPM手法を導入し、安定した生産技術を普及する。
- 2 狭山茶産地では「やぶきた」の極端な偏りにより摘採期の集中や老朽化による生産力の低下が顕在化しているため、県育成品種への改植を進め生産性の向上を図る。

新品種・新技術等の概要

1 IPMによるクワシロカイガラムシ防除技術の導入による被害軽減

■天敵への影響が少ない農薬の利用

(プルートMC・アプロートエースフロアブル等)

■天敵利用技術の普及

(ナギナタガヤ草地帯・米ぬか散布)

■クワシロカイガラムシ防除情報の発信による適期防除の推進

2 県育成品種の普及

■県育成品種(「おくはるか」、「ゆめわかば」、「さやまかおり」など)の導入による安定生産

■県産苗木供給力の強化

茶園周囲のバンカー植物
(ナギナタガヤ)



「おくはるか」求評会

コンソーシアム候補の体制図

市町・団体

各市町茶業協会・研究会

- ・活動支援、事業協力
- ・生産者への技術等情報伝達

JA・農業販売店

- ・天敵に影響の少ない防除体系の推進

産地

「やぶきた」から特徴のある品種への改植、クワシロカイガラムシ被害の軽減による生産安定

茶業研究団体

- ・生産者間の情報共有・技術伝達

実需者

埼玉県茶業協会

- ・特徴のある品種への改植の推進・進行方向の打ち出し
- 狭山茶茶商工連合会
- ・狭山茶のプロモート・新たな需要の創出

埼玉県 とりまとめ機関 (農業革新支援担当ほか)

- ・連携・調整
- ・技術指導の実施
- ・新品種・防除技術等技術開発・提供
- ・事業推進

主な取組内容

1 IPMによるクワシロカイガラムシ防除技術の導入による被害軽減

- 天敵への影響が少ない防除体系実証ほの設置
- 積算温度による孵化最盛日予測技術の実証
- 天敵利用技術の推進
- 防除情報の効率的な発信方法の実現
- 情報共有化による地域防除の推進
- 天敵への影響が少ない防除体系の推進

2 県育成品種の普及

- 「おくはるか」展示ほ場の設置
- 苗木生産における遮光技術の実証
- 「おくはるか」製茶法の確立
- 県育成品種の普及啓蒙
- 茶苗木生産農家の育成

課題と今後の対応

- 天敵利用技術(ナギナタガヤ草地帯設置、米ぬか散布)について天敵の生息状況をモニタリングする。
- 有望品種について、特徴を活かす製造法の検討を行うと共に、被覆新資材により県産苗木供給力の強化を図る。
- H26度の取組結果や今後の取組を踏まえて実需者と産地を結ぶコンソーシアム候補を形成する。